

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
42

振興協議会だより

〔発行日〕 令和2年4月27日
〔発行〕 苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕 025-765-1600



苗場山麓ジオパークがテレビで紹介されました

朝日テレビ系列のUX新潟テレビ21では、3月が津南町特集ということで、2つの番組で苗場山麓ジオパークが紹介されました。

認定ガイドの小島さんには下見から同行して頂き、アナウンサーと共に川の展望台、秋山郷方面を訪れました。見玉公園では残雪のためアナウンサーもスノーシューを体験し、見玉不動尊をお参りしたのち、切明の川原の温泉までご案内しました。小島さんは、大地のなりたちや自然の素晴らしさを、地域の人々、子ども達ほか大勢の人に伝えたいと語ってくれました。

さらに、生放送の番組では、ガイドの会から小島さん、中澤さん、大塚さん、山本さんの4人に出演していただき、苗場山麓ジオパークのオススメの場所を紹介するとともに、その魅力を伝えて頂きました。

また、TBS系列のテレビ信州「ゆうがたGet」とTeNY「新潟一番」という番組でも、さかえ倶楽部スキー場から生放送で、津南町と栄村のグルメが紹介され、苗場山麓ジオパークの幟も登場し、宣伝して頂きました。



川の展望台から



切明の川原で自作の足湯に



みんなで記念撮影

苗場山麓ジオパークの課題の1つとして、「プロモーションの弱さ」が再審査の際に指摘されています。けれども、プロモーションには、非常に費用が掛かります。小さな津南町、栄村にとって、その負担は大きく、お金のかからない、身の丈に合った、プロモーション戦略が求められます。その1つが、テレビ局側の企画に協力することです。今回は、観光担当部局と連携することで、苗場山麓ジオパークがテレビで紹介されることになりました。今後も、このようなプロモーション活動を進めていきたいと思っています。



総合パンフレットが新しくなりました

苗場山麓ジオパークの総合パンフレットが新しくなりました。

A4サイズ三つ折りで、表紙は美しい鳥甲山の朝焼けとなっています。苗場山麓のストーリー、代表的なジオサイトや展望地などを紹介しています。なお写真は歴代のフォトコンテスト入賞作品を多用させていただいています。各施設等に置いてありますので、ぜひ手にとってご覧ください。





ガイドブック実践編をもってジオサイトへ出かけよう！

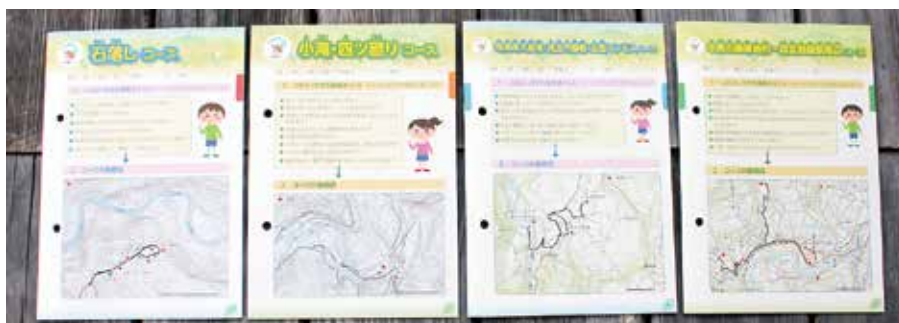
平成30年10月に苗場山麓ジオパークガイドブックの概要編（A4判）を作成し、各種講座等で活用しています。この概要編をもとに、フィールド用に持ち歩きに容易なA5判サイズのガイドブック実践編を1年に2コースずつ作成しています。平成30年度は「石落としコース」と「小滝・四ツ廻りコース」、令和元年度は、「笹葉峰大崩壊・見玉不動尊・古型マンモスコース」と「中条川崩壊地形・森宮野原駅周辺コース」、合わせて4冊が完成しました。そして、このガイドブック実践編を綴るためのハードカバーも併せて完成しました。表紙をめくると、このガイドブックの使い方と心構えについて記述されています。

ハードカバーは1冊500円、実践編は各コース1冊250円（4冊まとめて購入すると900円）で、農と縄文の体験実習館なじょもんにて販売しています。全コースをそろえていくのもよし、好きなコースや自分で撮った写真などを綴っていくのもよし、世界に一つしかない自分だけのガイドブックを作ってはいかがでしょうか。

購入希望の方は、農と縄文の体験実習館なじょもん ☎025-765-5511までお問合せください。



ハードカバー（立体メガネつき）



実践編4コース



令和2年度 学術研究奨励事業助成金交付者が決定しました

苗場山麓ジオパークでは、平成27年度から学術研究奨励事業助成金を交付しています。これは、苗場山麓ジオパーク地域を対象とした学術調査及び研究を支援し、苗場山麓ジオパークの学術資料の蓄積を図るため、大学院生、研究者等を対象に調査研究費の助成をするものです。令和2年度は9件の応募の中から学術指導委員の審査のもと下記の方々に助成が決定しました。

氏名（代表者）	所 属	研究の名称
渡辺 秀男	—	津南町北東部—信濃川沿いの東頸城丘陵、十日町盆地の地形・地学的な研究
植木 岳雪	千葉科学大学危機管理学部	1847年善光寺地震で発生した栄村切明地区における大規模崩壊の実態調査
涌井 泰二	苗場山麓の自然を考える会	苗場山麓の池沼における水生生物及び周辺植物の研究（2年次）
堀内 雅生	法政大学大学院 人文科学研究科	苗場山麓ジオパーク内に位置する風穴の継続観測データ収集および暑熱ストレス緩和効果の評価
高橋 翼	千葉大学大学院 融合理工学府	苗場山麓の積雪上で繁殖する雪氷藻類に関する研究
宮内 信雄	東京大学 総合研究博物館	縄文のおらほのどつつおどっけなん—縄文時代の津南郷の食景観を探索—(2)



ジオパーク推進室の新しい仲間をご紹介します



なぐも よしふみ
南雲 義文
栄村歴史文化館
こらっせ

趣味：ドライブ・ツーリング

スノーボード・ランニングなど

抱負：この4月から栄村教育委員会生涯学習係・ジオパーク担当をさせていただきます南雲と申します。自分の生まれ育った地域でお仕事をさせていただけることを大変嬉しく思います。ジオパークの事はまだまだ知らないことが多々ありますが、研鑽を重ね、津南町・栄村地域のためにお役に立ちたいと思いますのでどうぞよろしくお願いします。



いけだ ゆみこ
池田 由美子
なじょもん内
ジオパーク推進室

趣味：ドライブ・星空観察

抱負：4月より苗場山麓ジオパーク推進室の新たな一員となりました。私は、十日町市出身ですが、津南町の魅力に溢れた自然が大好きで、自然に関われる仕事ができ嬉しく思っています。これから苗場山麓ジオパークを始め、全国のジオパークについて沢山学び、ジオパークの素晴らしさをたくさんの方々に伝えるように頑張ります。

認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

小林幸一さん



ジオエリアの工事跡を探す（ガイド No.13 小林幸一）

ジオパークガイド研修のなかで、その後の私のライフワークとなった出来事があります。見玉での現地研修でガイドの方が中津川第1発電所の送水管を指さし「あの岸壁を工事用の電車が登って行った」との説明を聞き、私の技術者魂に火が付きました。

まずはインターネットで「中津川発電所」で検索してみると、いろいろな情報が出てきますが、中には変わった趣味の方がいて、ある鉄道マニアの方は地元の草軽鉄道を走った電気機関車のルーツは秋山郷の発電所工事で使われたことを知り、段野から切明までの軌道跡を踏破しています。

いったい彼らはどこから津南町史にも載っていない古い情報を仕入れたのか？調べると、その情報源は大正時代に土木学会から発行された「土木・建築工事画報」のアーカイブ版にあるとたどり着きました。

土木学会では大正4年から発行された学会誌を全文PDFで載せていて、その中から中津川や信濃川で行われた当時の工事や事前調査などを探し出します。中でも工事中の写真は特に貴重なもので、当時の技術者がアメリカから輸入された最新の技術や工法をせっせと学会誌に投稿している姿が伺われます。

また、私が隧道調査の段階で立ち寄った秋山郷のもつきりやで見て頂いた黒い絵図面には、信濃川から資材を積んで奥へ奥へと突き進んだ工事の概要が克明に描かれていたのです。

苗場山麓ジオパークの中心地である秋山郷は、雪解けによる豊富な水資源と天然の落差が発電所を造るのに最適で大正初期から注目を浴びていました。しかし陸路から僻地に大量の資材を運び込むのが困難で、川や鉄索、雪原を櫓で引いて物資を運びました。この豪雪地の中で中津川第1・第2発電所工事は、準備着工から僅か2年3ヵ月で全ての工事を完成させた偉業には驚くばかりです。

今でも原生林に残る苔むした基礎や人力で削った軌道跡や隧道、石やコンクリート構造物は100年近く経っても堅牢な姿で残っています。そんな日本の近代化に貢献した歴史的な遺産をジオパークと絡めながら、いつか紹介をする機会があればと思っています。



屋敷の布岩は碎石工場だった



芦ヶ崎から切明までの搬入ルートと機械・資材の一覧



反り口の隧道は荒々しい手掘りのまま



苗場山麓ジオパーク研究集録第2号が刊行

苗場山麓ジオパーク研究集録第2号が刊行しました。

令和元年度の学術研究奨励事業報告6本のほか、寄稿論文が1本、ジオパーク推進室による「令和元年東日本台風」の被害調査報告、寄贈資料目録が掲載されています。

販売しておりますので、ご希望の方は、農と縄文の体験実習館なじょもん ☎025-765-5511までお問合せください。1冊1,000円、遠方への発送も可能です。



突撃しよう!となりのジオ便り～栗駒山麓ジオパークからこんにちは～(栗駒山麓ジオパーク専門員 中川理絵)

栗駒山麓ジオパークは、宮城県の北西部に位置する、栗原市全域をエリアとするジオパークです。私たちがジオパーク活動に取り組むことになったきっかけは、今から12年前に発生した、平成20年岩手・宮城内陸地震でした。

2008（平成20）年6月14日に生じたこの地震は、岩手県内陸南部を震源とし、マグニチュードは7.2、栗原市と岩手県奥州市では震度6強を観測しました。この地震によって、栗駒山の山麓部を中心に、3,500か所を超す山地災害が発生しました。風景が一瞬にして変貌してしまったのです。

この震災の復興の過程において、栗原市は、震災によって生じた新たな自然景観と地域の再生の姿を貴重な資源と位置づけ、山地災害をはじめとした価値ある地球活動の痕跡を保全し、持続可能なまちづくりを考えるツールのひとつとして、ジオパークを活用した取り組みを開始することとしました。その後、2015年9月、私たちの地域は栗駒山麓ジオパークとして、日本ジオパークに認定されました。

私たちのジオパークを代表するジオサイトである「荒砥沢地すべり」は、平成20年岩手・宮城内陸地震によって生じた山地災害の現場です。こうした地震や土砂崩れは、私たちの暮らしを一変させてしまう自然現象であり、このような現象の頻発は、もちろん好ましいものではありません。一方で、大地の変動の累積が、美しい山地の景観をつくりあげてきたという考え方もできます。また、荒々しい崩壊によって生じた土砂は、下流に肥沃な大地を作り出してきました。山地に降る雨や雪、時おり発生する地震によって大地は崩れ、くずれた土砂は河川をくだり、下流の平野へと流れつきます。

栗駒山を見上げる平野部には、広大な水田景観がひろがり、ここに暮らす人びとの営みによって、栗原は全国に名を知られる良質米の産地として発展してきました。そして、お米だけではなく、その豊かな大地では、様々な農産物が生産されています。

栗駒山麓ジオパークでは、こうした地域の食材を用いた食事、お土産、レシピを募集し、栗駒山麓ジオパーク特産商品「栗駒山麓のめぐみ」として認証する制度があります。この制度には、美味しい地元食材を食べてジオパークを楽しむという体験を通して、地域内外の方々にこの地域の成り立ちを含めた食品の「美味しさの理由」を知って頂き、地域の価値の理解につなげていく目的があります。また、この取り組みは、認定店のネットワークを活用した新たな活動を創出するなど、地域の持続可能な経済発展に結びつけていくことも目指しています。

私たちのジオパークでは、「自然災害との共生と豊穡の大地の物語」をテーマとし、地球の営みを見て、聞いて、ふれて、味わっていただくための様々な機会を設けています。昨年の9月には、苗場山麓ジオパークの皆さんにお越しいただき、認定店や栗駒山麓ジオパークビジターセンターを視察いただきました。ぜひジオパークを通じた人・情報の交流を、これからも図っていきましょう。



藍染湖ふれあい公園（荒砥沢地すべり）



めぐみ認定店集合写真



めぐみ認定店 丸勝